

一語の光

碓田のぼる短歌集成

碓田のぼる 著



本の泉社・5000円

うすだ・のぼる 28
年生まれ。歌集『花ど
き』で多喜二・百合子
賞受賞。『落ち穂ひろ
い』、歌集『くれない』
ほか多数

土台とし、著者自身の社会や歴
史への自覚的関わりを軸にしな
がら、その短歌表現が、多くの
先輩や仲間との豊かで真摯な交
感によって形づくられたもので
ある。青柳競、渡辺順三、岩間
正男、赤石茂、山原健二郎はじ
めとした先輩や仲間の歌はこれ
ら歌人の生き様に光を当てなが
ら、自らを励ます類まれなる挽
歌群である。中でも、著者の妻
である同志・碓田千枝子への歌
は、さらに哀切極まりない。

人間が生きるといふことの意
味を渾身の力で追求した歌は時
代に関わる作品群と混然たる融
合を遂げている。

濃の情景は、故郷を失われつ
つある現代人への問いかけとな
って心に沁みこんでくる。
・ふるさとの信濃はおそき春な
がら花あかりしてモモ・サク
ラ咲く
『短歌集成』は、故郷信濃を
土台とし、著者自身の社会や歴

『一語の光』には1945年
の習作期の歌をはじめ、202
2年に刊行された『くれない』
まで、14冊の歌集の5650余
首が収められている。この一書
は冒頭の自註に作者が記した通
り、「戦後という時代をひたす
らに歩んだひとつの精神史」の
短歌として読まれるべき稀有な

作品群である。書名は、(民主
主義の一語に光あらしめよ海遠
く聳つ新年の富士)からとられ
ているが、前後の歌集に「民主
主義の一語は重し」、「民主
主義の一語の重み」ともあり、通観
すれば、この言葉が戦後の混乱
期から、パンデミックやウクラ
イナ侵略、アベノミクスと敵基

地攻撃論にいたる激動のなか
で、自らの短歌創造と国民の側
の抵抗の旗として押し立てられ
ていることが伝わる。

またこの一書の土台には遙か
なる故郷・信濃への愛着があ
る。そしてまたそこには、父、
母、先だった兄への追慕があ
る。重層する歌声が生み出す信

濃の情景は、故郷を失われつ
つある現代人への問いかけとな
って心に沁みこんでくる。
・ふるさとの信濃はおそき春な
がら花あかりしてモモ・サク
ラ咲く
『短歌集成』は、故郷信濃を
土台とし、著者自身の社会や歴

史への自覚的関わりを軸にしな
がら、その短歌表現が、多くの
先輩や仲間との豊かで真摯な交
感によって形づくられたもので
ある。青柳競、渡辺順三、岩間
正男、赤石茂、山原健二郎はじ
めとした先輩や仲間の歌はこれ
ら歌人の生き様に光を当てなが
ら、自らを励ます類まれなる挽
歌群である。中でも、著者の妻
である同志・碓田千枝子への歌
は、さらに哀切極まりない。

人間が生きるといふことの意
味を渾身の力で追求した歌は時
代に関わる作品群と混然たる融
合を遂げている。

人が生きる意味渾身の力で追求